



## 上代町遺跡群

(かみだいまちいせきぐん)

上代町遺跡群は西区上代や城山下代、城山大塘にまたがる東西に広い遺跡です。標高は約 3.5m で、発掘調査を行う際は水が湧いてくる土地です。この遺跡群では縄文時代後晩期から近世における人々の生活の痕が発見されました。



弥生時代中期の大溝 木製品が 1000 点以上出土しました。



(上) 赤漆塗木製劍柄

(下右・左) 盤部



馬の埋葬土坑

最新の調査では、弥生時代と古墳時代のものが多く見つかっています。弥生時代中期の大溝からは大量の木製品が出土しました。農耕具、建築部材などバリエーションが豊富で、未成品も多いです。石斧も多く出土し、この地で木器が製作されたことが想定されます。

また、注目すべきは、大溝の最下層から見つかった「赤漆塗木製劍柄」と「盤部」です。柄は銅劍に装着された可能性が高く、これらは国内で他に発見されていません。

他にも馬が埋葬された土坑があり、これは古墳時代後期に属する可能性が高いです。当時、馬は大変貴重なものでした。

以上のものから、弥生・古墳時代においてこの地に権力者がいたことが想定できます。この地は、対外交渉の窓口としての性格をもっていたのかもしれませんが。